第 2 回名寄市立大学の経営に関する調査特別委員会 概要報告

年 月 日	令和 7 年 7 月 9 日	会場	第 1 委員会室	案件	所管事項の調査
出席委員	東千春 佐藤靖 東川孝義 遠藤隆男 高橋伸典 高野美枝子 川村幸栄 今村芳彦 山崎真由美 中島孝幸				
委員外議員					
欠席委員					

審査及び報告事項

委員長の挨拶の後、委員会の運びとして今回、次回は「名寄市立大学の在り方検討委員会」からの状況の報告と質疑を行い、追加資料について諮ることとした。

石橋総合政策部長からの挨拶の後、菊池総合政策部参事から資料に基づいて説明を受けた。質疑応答では、

Q. 大学教員ヒアリングについての資料はあるのか。

A. 学長、副学長、学部長などの管理職に聞き取りした。委員会内部の資料とし、ホームページ等には上げていない。

Q. 地域または在学生からの意見は聞いたか。

A. 構成された委員は市内の団体から参加して頂き、専門的な意見を伺えたと思う。

大学には 2 年に一度学生アンケートを行っており、委員会の内部資料とした。上川総合振興局では旭川市立大学と名寄市立大学にアンケートを行い、こちらも内部資料とした。

Q. 多くの教員からの意見を聞いた経緯はあるか。

A. 大学を代表して学長が委員となっており、大学内での状況説明は教授会で行っている。

Q. 大学院設置はどの程度進んでいるのか。

A. 教員の入れ替わりもあり進んでおらず、今後のスケジュールも決まっていない。4 つの学科全体では難しく、各学科に分かれて検討し来年度の申請を目指す。

Q. 財政的な覚悟の意味とはどのようなことか

A. 財源カットのための法人化ではないと認識している。

Q. 今後の学科編成の考えは。

A. 検討課題ではあるが、現状では議論されていない。

Q. 学生募集に対する今後の考えは。

A. 2 年前ルールに基づいて総合型選抜として学校型推薦とは別に行う。

Q. 今年の定員割れで、入学辞退の傾向と旭川市立大学の影響は。

A. 一定の辞退を想定しながら通知する。旭川市立大学との併願では辞退者が少なかった。

Q. 法人化による予算面での影響とそのような資料はあるか。

A. 法人化では必要経費も見積もりをした上で、市の予算のように「節」割りをしないでまとめる。

次回の資料要求として、直営の場合と独法になった場合の資金の動きが分かる資料として釧路公立大学の資料の提出を求めた。

大学学長をはじめとする管理職の意見聴取については次回協議することとし、閉会した。

報告者 名寄市立大学の経営に関する調査特別委員会 委員長 東 千春